

# 北欧の旅から(8)

## 国民高等学校について

県畜産課 多田昌男

### 1、スウェーデンの学校制度

スウェーデンの農業系の学校は、およそ次の6段階に分けることができます。

小学校 Folkskola (Primary School)

国民高等学校 Folkhögskola (People's College)

農家学校 Lantmanskola (Farm School)

農学校 Lantbruksskola (Agricultural School)

農業専門学校 Lantbruksinstitut (Farm institute)

農業大学 Lantbruks Högskola (Agricultural College)

学校の内容を分り易くするためスウェーデン語とカッコ内に英語を示しました。初等教育の小学校は昨年まで8年課程でしたが、本年位から7年制度に改正される由でした。しかしこの場合6年で卒業して自分の家で勉強してもよいことになっています。つまり6年間は義務制というわけです。

この国の県立農学校は全部で50校ありますが、小学校卒業又は6年修了後18才までここで勉強します。そして主として直接農業に関係のある大農具等の知識、家畜の管理等に重点をおいて学理に主体性を持ち、実習を行なっています。

農家学校は50校の農学校の施設を使って、農学校内に設けられます。この学校制度が現在蒜山の岡山県立酪農大学校で採用している方式で、農家の短期入校です。ここの学校は6ヵ月、1年、2年の3コースとなっています。入学資格は小学校又は国民高等学校を卒業していればよく、授業料は不要です。

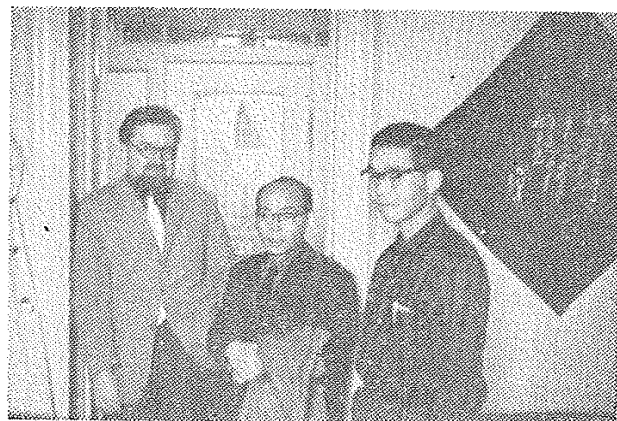
6ヵ月コースには自家農場を持つ者が多く、理論を冬の11月から翌年3月にかけて勉強します。1年コースは4月から5月の間に1ヵ月、11月から3月の間に5ヵ月計6ヵ月理論について勉強し、5月から11月の間に6ヵ月実習に従事します。2年コースは1年コースを2年連続実施することになります。

このほか農業専門学校と農業大学がありますが、

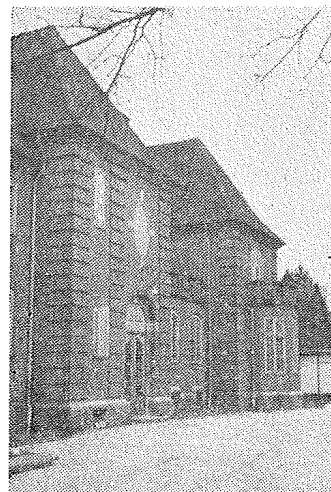
わが国のように大量入学するわけではなく、農業従事者は殆んど英語も話せない状態です。

### 2、デンマークの国民高等学校

デンマークの首都コペンハーゲンから北方約10キロの地点マグレスにある国民高等学校を昨年11月15日訪ねました。この学校の校長はポール・ダム氏で、丁度運よく日本人の矢崎健二君が勉強していましたのでいろいろと説明してもらいました。彼は昭和32年に専修大学経済学部を卒業し、その後3年間会社勤務、36年7月休職のうえアメリカに渡り、会社にフリーとして職場勉強し、36年10月18日デンマークに入国、同年11月4日からこの学校へ入学して



デンマーク国民高等学校長（向って左）  
右端は矢崎健二君



デンマークの国民高等学校

## 岡山畜産便り 1962.10

います。本年4月までの6ヵ月間勉学後デンマークの貿易会社へ入るためのトレーニング中とのことでした。

この学校はインターナショナルで、どこの国の人も自由に入校できるようになっています。デンマークにはこのような一般的な国民高等学校66校、国民高等農業学校30校、及び国民体操高等学校の3種類がありますが、教育期間は最低3ヵ月、次いで6ヵ月、最高8ヵ月となっています。矢崎君が勉学していたこの学校は夏と冬の2回で6ヵ月コースとなっており、私が訪ねた時は11月から4月までのウインターコースでした。

この学校はその昔、グリントヴィーグ氏が寺小屋的なものとして創設し、1944年から国民高等学校として発足し、現在に至っています。この学校の教育は若い人々、つまり男女共に基本的なものの中でも専門教育、一般教育、人格教育を目的としています。生徒全員で討議（校長は特にこのディスカッションを強調していた。）し、学理の実際の応用討議を行ない、ここで6ヵ月の教育を受けた後、各専門の学校或いは職場に行きます。専門学校には国民高等学校も勿論含まれますが、ここを卒業した人の中には大学に進む人もあります。又教師になる人もありますが、教師になるためには更に教習所に行って勉学人もあります。

この学校には試験がなく、「完全な職場における職業人を作りあげ、これに基づいて共同生活を通じてデモクラシー精神を体得させる。」ことが主要教育方針となっています。

入学資格としての年齢、学歴には制限がなく、デンマークでは最も早いものは小学校5年卒業後入学しています。現在は最低13才、最高30才位で、女性は全員娘さんですが、家庭を持っていても、一人であれば入学できるようになっています。

定員は60名ですが訪問当時は49名で国別内訳は次のとおりでした。

国名	男	女	計
デンマーク	8	29	37
日本	1	—	1
タイ	—	1	1
アメリカ	—	1	1

アフリカ（ガーナ）	1	—	1
スイス	—	1	1
ニュージーランド	—	1	1
アイスランド	1	1	2
スウェーデン	1	2	3
ノルウェー	—	1	1
計	12	37	49

入学申込みはコペンハーゲンの文部省に申込書で申込みばよいわけですが、この学校の教習内容は、デンマーク語、英語は必須科目で全員受講、次いでドイツ語、フランス語、ノルウェー語が選択科目となっています。このほか数学、工作、歴史、フィルム教育、歌鑑賞（週3時間3回）、読書（教師が本を読むのを聴くのみ）等があります。

1日の時間割は、7時15分起床、7時45分朝食、8時15分朝の歌（5分間位）と話、8時30分授業開始、12時5分昼食、18時夕食、19時30分工作、音楽鑑賞21時お茶の順序となっており、普通1日9時間のうち一人が平均4時間位受講しています。つまり各人の希望によって授業時間が異なっています。教師は常時校長以下5名で、校外からも講師を招いています。



デンマーク国民高等学校の食堂内部

この学校を卒業しても何の資格も与えられませんが、ここを出て大学へ入る人もいます。デンマークの国民高等学校は総て私立で、その財源は国庫補助50%。授業料50%でまかなわれています。一人当りの授業料は、ウインターコース6ヵ月で1,890クローネ（1クローネ52円として98,280円）、一日当たり10.5クローネ（546円）となっています。この値段で食事等総てをまかなってくれます。

## 岡山畜産便り 1962.10

このほか国民農業高等学校を訪問したかったのですが、コペンハーゲンの近くになく、又日時もゆとりがなく十分調査できなかったことを残念に思っています。

### 3、南廻りで帰国

デンマークでは国民高等学校のほか、国立酪農試験場、同試験農場等を視察し、乳牛とランドレースについて学びました。これでやっと予定の1ヵ月を終り昨年11月18日デンマークのコペンハーゲンをスカンジナビア航空機で飛び立ち、ドイツのフランクフルトでオーストラリア航空機に乗り替え、途中アテネ、バクダッド、カラチ、ニューデリーを経由してタイ国の首都バンコクに一泊しました。

冬の北欧から常夏の国タイにおり立ちましたが、この国は現在道路の整備に力をそそいでおり、あちらでも、こちらでも道を掘り返して舗装していますが、丁度現在の岡山県と同じことが言えます。ここでは日本製の三輪、自動車等が多く眼につき、黄色い衣をまとった坊さんがサンダル或いは素足でヤシ並木の下を歩く姿が印象的でした。

翌11月19日アメリカン航空機で香港へ向かい、ここで一泊しましたが、夜の町香港は非常に美しく映画的ですが、昼の香港は歌、映画で見聞する程期待がもてませんでした。「麻薬の国香港」これが適当な言葉かもしれません。着陸早々いやな思いをすることは、税関における麻薬検査で、個室での身体検査は総ての一般旅行者の人格を無視したやり方です。しかしアメリカ、イギリス人に対するやり方は手心があるのとはアジア人種のひがみとも言いきれないものがあります。欧州で感じなかった劣等感をアジア諸国で感じさせることは、日本の敗戦に基因していることと思われれます。アジアでは一番文化の進んでいる日本であることに満足は感じましたが、一日も早く欧州人並に他国から取扱われる日の早らんことを希う次第です。

香港から初めて日本の飛行機に乗り11月21日夜無事東京国際空港におり立ちましたが、1ヵ月振りに聞く日本の言葉、風景は何とも言えない懐かしさと愛着を感じました。

以上8回にわたり長々と駄筆を走らせましたが、この辺で筆を置きたいと思います。毎回紙面を汚し

ましたことを心からお詫び申し上げます。(おわり)